

インターシップを通じた成長評価と支援

—社会人基礎力向上に向けた取り組みにおけるキャリア・カウンセリングの有効性—

向井 勝也* 前田 吉広**

Growth Support and Consideration through Internship

Katsuya MUKAI* Yoshihiro MAEDA**

ABSTRACT

It is considered that to improve students' basic social skills necessary to function as a member of society and to foster their motivation and attitude toward the improvement through internship, the assessment of basic social skills and career counseling are effective. Therefore, we conducted career counseling for the internship students after the post facto workshop to verify the effectiveness of the counseling, and to clarify the results and issues.

キーワード：インターンシップ、社会人基礎力、キャリア・カウンセリング、
キャリア・ガイダンス

1. はじめに

昨年度から導入した「社会人基礎力診断（事前・事後）」を、学生の社会人基礎力向上及びそれに向けた意欲・態度の醸成に有効に機能させるには、キャリア・カウンセリングが有効と考える。そこで、今回のインターンシップ実施学生について事後研修会終了後にキャリア・カウンセリングを実施し、その有効性を検証するとともに、成果と課題を明らかにした。

2. 課題設定の理由

(1) 2020 年度までの実践

本学では、BINGO OPEN インターンシップがスタートした 2012 年より、インターンシップを通じた学生の成長を把握するために、社会人基礎力^①を指標とした事前・事後診断（有料版）を実施していた。しかし、学生の自己評価をベースにした診断であり、個別の分析をもとにした学生へのフィードバックや、インターンシッププログラムの改善・充実につながる有効活用などについて十分に対応できていない状況だった。

そこで、2020 年度、社会人基礎力診断を株式会社ジェー・オー・アイ社（以下 JOI 社）との協働事業契約のもと実施した。診断は事前研修実施前と事後研修実施後の 2 回、オンラインでおこなわれ、前後の比較結果を学生自身も診断後すぐ確認できるようになっている。社会人基礎力「12 の能力要素」と各能力要素を細分化した「36 の指標」について測定スコアの変化を計測、分析結果を言語化して学生に提供した。なお学生に対しては、事前・事後研修を通じて全参加者が診断をおこなうよう指示していたが、2020 年度、インターンシップ前後の 2 回とも受診した学生は 24 名、全参加者の約 33%にとどまり、社会人基礎力診断の有効性を広く学生のキャリア形成に役立てることができなかった。

*大学教育センター特命講師

**大学教育センター講師

しかし、24名のデータ分析により、社会人基礎力「12の能力要素」「36の指標」の向上項目とその要因分析、オフライン(対面)インターンシップとオンライン・インターンシップによって、変化の大きい能力に違いを見ることができた。

就活アドバイザーによる個別面談については、合同成果発表会参加学生4名のみであった。しかし個別面談は、インターンを通じた体験をデブスインタビュー調査することで、社会人基礎力診断に影響を及ぼした要因を確認することができた。

2020年度は社会人基礎力診断の受診を十分に促すことができず、受診率の向上が絶対条件、という課題が残った。また、JOI社の就活アドバイザーによる個別面談は、物理的に対応対象の学生数が絞られるため、インターンシップ参加学生個々のキャリア形成には結びつかなかった。

協働事業 「インターン実践を中心としたITシステム活用による 産学連携でのキャリア教育実践支援モデル構築事業」	
契約日	令和2年4月7日
1 事業内容	(1) 福山大学・大学教育センター・自分未来創造室が企画・運営する「BINGO OPEN インターンシップ」の改善・充実を目的としたキャリア支援手法に関する研究・開発 (2) 福山大学生を対象とするキャリア教育に関する新しい手法の研究・開発
2 株式会社ジェー・オー・アイ社が提供するサービス	(1) インターンシップ前 就活の基本的な情報提供と目標設定、社会人基礎力診断を実施 ^{※1} (事前研修との連携) (2) インターンシップ中 就活アドバイザー ^{※2} への相談窓口の提供 (3) インターンシップ後 社会人基礎力診断の最新版 ^{※1} とフィードバックコメントの提供 ※1 JOI スタート管理画面より参加学生データの取得・閲覧可能 ※2 福山大学と就活アドバイザーとの連携においては、事前にサポート内容などを福山大学の指導内容に合わせて調整する
3 協働事業で目指すこと	本協働事業では、福山大学のキャリア教育にて毎年実施している企業インターンシップ(以下、インターン)において、株式会社JOI(以下、JOI)の「JOI START」を活用し、中立的な立場で参加学生の自立をサポートします。さらに、その記録を蓄積・分析することで、学生の社会的・職業的な思考形成におけるPDCAのプラクティスを見出すことで、今後のキャリア教育モデルの構築に繋げていくことを目的としています。 (1) 福山大学が目指すこと ・インターンを活用したキャリア教育と実践モデルの構築 ・ITシステムを活用したキャリア教育実践支援の効果の検証 ・地域大学を中心とした産学連携によるキャリア育成モデルの基礎構築 (2) 学生に目指してもらいたいこと ・インターンを通して、社会的・職業的な観点での事故把握と、就職の難などを主体的に見つけ出すこと ・社会人として必須である「PDCAによる改善サイクル」をキャリア教育を通して学生時代から意識してもらうこと
4 JOI社の提供すること	(1) JOI STARTの「社会人基礎力診断」により、インターン前後の能力変化を数値により可視化する。 (2) JOI STARTの「就活アドバイザー」のフィードバックにより、キャリア意識の向上を推進する。 (3) 「社会人基礎力診断」のデータと「就活アドバイザー」のヒアリングで能力変化の要因を分析する。 上記を実施することで、以下を確認する。 (1) インターン実施により、どのような能力に変化が出るのか可視化し効果を実証する。 (2) インターンの方法により能力変化に違いがあるかを検証し、企業とのマッチングに生かす。 (3) 社会人基礎力が変化した要因(行動・思考)を把握することで新たな指導方法を見出す。

図1 JOI社との協働事業契約書の一部

表1 JOI社による「社会人基礎力」整理表

3つの能力	12の能力要素	36の指標
1 前に踏み出す力	①主体性	物事に進んで取り組む資質 当事者意識 決断力 チャレンジ力
	②働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力 Win力 説得力 フォローアップ力
	③実行力	目的を設定し確実に行動する力 目標設定力 行動力 粘り強さ
2 考え抜く力	④課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力 多面的視野 疑問力 分析力
	⑤創造力	新しい価値を生み出す力 情報収集力 想像力 情報加工力
	⑥計画力	課題解決に向けたプロセスを明確にし準備する力 仮説設定力 判断力 プロセス構築力
3 チームで働く力	⑦発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力 論理構築力
	⑧傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力 翻訳力 発言力 関心力
	⑨柔軟性	変化に応じて機転を効かせたり行動できる資質 関心力 反応力 質問力
	⑩情況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力 多様性 階層性 臨機応変さ
	⑪規律性	計画やルールに沿って秩序を守る資質 観察力 察知力 役割理解力
	⑫ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力 法令順守 倫理観 自己管理 前向きさ ストレス対応力 リフレッシュ力

(2) 2021 年度の実践

2021 年度 4 月～7 月、新型コロナウイルス感染状況が落ち着きを見せていたため、インターシップを希望する学生は前年度と比べ回復した。また、受入れ事業所についても、感染対策を講じて対面インターシップを実施する事業所、オンライン・インターシップを実施する事業所が増えたため、受入れエントリー事業所総数が前年度と比べ回復した。結果、7 月末段階でインターシップが決定した学生は本学だけで前年度の 2 倍の 140 名に達した。

そこで、2020 年度に導入した「福山大学と株式会社ジェー・オー・アイ社 協働事業」を十分に活用して、学生のキャリア形成に有効に働かせるために、次の 2 つについて取り組むこととした。

- 1) 社会人基礎力診断（事前診断、事後診断）の受診率を高める。原則全員受診の方針で臨み、受診者を増やせば、インターシップが社会人基礎力のどの要素に影響を与えるか、そしてその要因分析をより客観的に行うことができるだろう。
- 2) 社会人基礎力診断事後診断後、原則全員対象としたキャリア・カウンセリングを実施する。このことにより学生は、社会人基礎力診断の変化の要因を内観的に捉えることができるとともに、今後のキャリア形成・社会人基礎力向上のための展望を描くことができるだろう。

3. キャリア・カウンセリングに係る理論

実践を始めるに当たり、キャリア・カウンセリングの目的と技法についての理論を整理し、今回の研究実践がどの理論に基づくか、文献研究した。

(1) キャリア・カウンセラーとキャリア・カウンセリング

日本キャリア教育学会⁽²⁾は、キャリア・カウンセラーについて「生徒、学生、成人のキャリアの方向づけや進路の選択・決定に助力し、キャリア発達を促進することを専門領域とするカウンセラー」としている。ここで定義されたキャリア・カウンセラーが行うカウンセリングをキャリア・カウンセリングと言える。

木村 (2015) ¹⁾は、「キャリア・カウンセリングとは、個人に対するキャリア形成支援（キャリア・ガイダンス Career Guidance）において行われるカウンセリングである。」とキャリア・カウンセリングを定義している。この定義によると、キャリア・カウンセリングは、キャリア・ガイダンスの中に含まれる行為といえる。

それでは、キャリア・カウンセリングが含まれるキャリア・ガイダンスとは何だろうか。全米キャリア開発協会 NCDA⁽³⁾はキャリア・ガイダンスを「キャリア・ガイダンスとは、個人が、自分自身と職業の世界における自分の役割について、統合されかつ妥当な映像を発展させ、また受容すること、この概念を現実にも照らして吟味すること、及び自分自身にとっても満足であり、社会にとって利益があるように、自己概念を現実にも転ずることを援助する過程である」（全米キャリア開発協会 1951）と定義し、「キャリア・ガイダンスの 6 分野」を次のとおり挙げた。

- 1) 自己理解：進路や職業、キャリア形成に関し、クライアントが自分自身を理解するように援助すること。
- 2) 職業理解：進路や職業、キャリア・ルートの種類と内容をクライアントが理解するよう援助するこ



図2 社会人基礎力診断結果サンプル

と。

- 3) 啓発的経験：選択や意思決定の前にやってみること。
- 4) カウンセリング：キャリア・カウンセリングを行い、意思決定を援助すること。
- 5) 方策の実行：意思決定したことを実行するよう援助すること。
- 6) 追指導・職場適応：これまでのガイダンスを評価し、クライアントの職場適応を援助すること。

このように、キャリア・カウンセリングをキャリア・ガイダンスの6分野の中の一つとして挙げ、次のとおり定義している。「個人がキャリアに関してもつ問題や葛藤の解決とともに、ライフキャリア上の役割と責任の明確化、キャリア計画、決定、その他のキャリア開発行動に関する問題解決を個人またはグループカウンセリングによって支援することである。」

このNCDAの定義にも見られるように、キャリア・カウンセリングは単なる個人と仕事（進路）をマッチングさせることによって、仕事を見つけるため、進学（就職）情報提供のためのカウンセリングではない。個人の生涯発達を視野にいれながら、個人のキャリア開発、キャリア形成、キャリア設計の支援を幅広い視点から行い、自己実現に向けたキャリアに関するさまざまな問題解決を側面から支援するカウンセリングである。

これらの理論をもとに、キャリア・カウンセリングの目的を、「キャリア発達を促進し、キャリアに関する意思決定を支援するカウンセリング」と捉えることとする。

(2) キャリア・カウンセリングの技法

宮城(2006)²は、「カウンセリングには大別すれば、『なおすカウンセリング・治療的カウンセリング』と『育てるカウンセリング・開発的カウンセリング』とがある」と述べている。そして、「キャリア・カウンセリングは、2番目の『育てる、開発的カウンセリング』であり、現在から未来を展望して自分の生き方、働き方を考え、キャリア開発、キャリア形成、キャリア設計のための支援と指導を行うカウンセリングである。そして、一人ひとりの生きること、働くことへの意欲・態度、職業能力を育て、キャリアを開発支援するカウンセリングとして位置づけられている。」と述べている。

それでは、キャリア・カウンセリングの『育てる、開発的カウンセリング』と言われる技法はどのようなものか。その技法（態度、スキル）について、木村(2010)³は次の1)2)のとおり整理している。

1) カウンセラーの基本的態度

キャリア・カウンセリングもカウンセリングである以上、その原理・原則やカウンセラーに必要とされる基本的な態度、知識、スキルなどは一般のカウンセリングと同様である。その基本的態度は、一般に次の3点と考えられている。

① 受容的態度

カウンセラーは、クライアントに対して無条件の肯定的関心を持つこと。

② 共感的理解

カウンセラーは、クライアントの内的世界を共感的に理解し、それを相手に伝えること。

③ 自己一致、または純粋性

カウンセラーはクライアントとの関係において、心理的に安定しており、ありのままの自分を受容していること。

2) キャリア・カウンセリングに必要な基本的スキル

平成14年4月、厚生労働省「キャリア・コンサルティング研究会報告」は、キャリアコンサルティングにおけるカウンセリングに必要な基本的スキルとして次の6項目を挙げている。

① 基本的スキル

そのカウンセラーはどんなカウンセリング観・理論に立つのか。カウンセリングをどう定義するのか。カウンセラーとしての基本的態度を身につけているか。

② キャリア・シートの作成指導

③ カウンセリング・スキル

受容、繰り返し（言い換え）、明確化、支持、質問、かかわり技法（はげまし、言い換え、要約、感情の反映、意味の反映）、応答技法、カウンセリング関係の樹立、問題の把握など、クライアントとカウンセラーのコミュニケーションを確立するためのスキルを知っているか、使えるか。

④ グループ・カウンセリング

グループ・カウンセリング、グループ・エンカウンター、構成的グループ・エンカウンター、グループ・ガイダンスなど、グループワークに関する理論と実際を知っているか。実際に行うことができるか。

⑤ 相談過程全体のマネジメント・スキル

クライアントが、いまカウンセリング・プロセスのどの段階にいるかを常に把握し、その段階に応じた適切なカウンセリングができるか。

- ・問題をつかむ（視線、表情、ジェスチャー、声の質・量、など）、処置（リファー、ケースワーク、スーパービジョン、コンサルテーション、具申など）ができること。
- ・意識化技法（意味、問題、目標、感情の意識化）、手ほどき技法（目標の明確化、行動計画の作成、スケジュールと強化法の設定、行動化の準備）ができること。
- ・目標の設定、方策の選択と実行、結果の評価ができること。

⑥ 自己研鑽、スーパーバイズ

今回行うインターンシップ後におけるキャリア・カウンセリングは、1)で挙げた基本的態度に立ち、2)で挙げた基本的スキルのうち、③カウンセリング・スキル、⑤相談過程のマネジメント・スキルを用いて、学生のキャリア形成支援を図るために行うカウンセリングと捉えた。

4. 研究の仮説と検証方法

(1) 研究の仮説

社会人基礎力向上に関する気づきとその要因は、学生が事前診断結果・事後診断結果を見るだけでは気づかないと考える。事後診断の後、キャリア・カウンセリングを行うことによって学生自身が向上能力とその要因に気づくことができるものとする。そして、キャリア・カウンセリングによって、その後の学生生活における学びと行動目標を、学生自身によってデザインすることができるだろう。

(2) 検証方法

1) JIO 社会人基礎力事後診断後にキャリア・カウンセリングを行う。

2) キャリア・カウンセリング後に「社会人基礎力アンケート」を行い、

- ① 社会人基礎力向上能力とその要因を客観的に捉えることができたか
 - ② 今後の学生生活における学びと行動目標をデザインすることができたか
 - ③ ①②に係り、キャリア・カウンセリングの有効性を捉えることができたか
- について、分析する。

5. 研究の実際

(1) 実施計画

今回のインターンシップを通じて、学生が、どれだけ「社会人基礎力」を向上させたか、そして、これからどのようにして「社会人基礎力」を伸ばしていくか、自分未来創造室のキャリアコンサルタント（国家資格「キャリアコンサルタント」⁽⁴⁾有資格者）が、学生一人一人と、ともに考えていくキャリア・カウンセリングを、オンライン（zoom）で実施する。

1) 実施日時

実施日 9月27日（月）～10月1日（金）、及び10月4日（月）の6日間

実施時間 一人あたり 15分～20分

2) キャリア・カウンセリング時に、学生が手許に用意しておく資料

社会人基礎力診断（1回目、2回目、比較考察）シート

目標達成度チェックシート

社会人基礎力アンケート「キャリア・カウンセリング時用シート」

3) キャリア・カウンセリング終了後、学生は「社会人基礎力アンケート」を入力する。

このアンケートは、今回のインターンシップを通じて、学生の皆さんが、どれだけ「社会人基礎力」を向上させたか、そして、これからどのようにして「社会人基礎力」を伸ばしていくかを、一緒に考えていくためのアンケートです。社会人基礎力診断（2回目）とキャリア・カウンセリングが終わってから、Formsに入力してください。なお、キャリア・カウンセリング時は、社会人基礎力診断（1回目、2回目、比較考察）シート、目標達成度チェックシート、そしてこのアンケートシートを持って、カウンセリングに臨んでください。

(1) 社会人基礎力について、気づき・発見

- ① 社会人基礎力診断（2回目）で、12の能力要素のうち、スコアが高かった順に2つ挙げてください。
- ② 12の能力要素のうち、1回目から2回目で最もスコアが上昇した要素を、高い順に2つ挙げてください。
- ③ そして、②において、スコアが上昇した理由を考えて、記入してください。

(2) これからの就職活動・職業生活に向けて

- ① 12の能力要素のうち、自分にはどの力が重要だと考えますか？（複数回答可 3つまで）
- ② そして今後、どのようにして、その力を伸ばしていくべきと考えますか？

(3) 社会人基礎力診断、キャリア・カウンセリングを受けて、気づいたこと・感想等、自由に記述してください。

3 「社会人基礎力アンケート」（＝「キャリア・カウンセリング時用シート」）

(2) キャリア・カウンセリング実施の実際

Formsで希望日時をとってキャリア・カウンセリングを実施した。実施に当たっては、(2)で挙げた「キャリア・カウンセリング時用シート」を学生が持ち、キャリアコンサルタントが一項目ずつ尋ねていった。そして、キャリア・カウンセリング終了後、学生は、カウンセリングで話した内容をもとに、シートと同じ質問である「社会人基礎力アンケート」に入力した。

表2は、学生の参加、提出状況集計表である。夏季インターンシップに参加した学生87名中の70%にあたる61名がキャリア・カウンセリングを受けた。そして、61名中55名がキャリア・カウンセリング後の社会人基礎力アンケートを提出した。このアンケート提出者55名分について、結果を分析した。

表2 インターンシップ後の参加・提出状況集計表

項目	人数
夏季インターンシップ参加者	86
事後研修参加者	85
キャリア・カウンセリングを希望して実施した学生	61
社会人基礎力アンケート提出者	55

6. 結果と分析

(1) 質問「12 の能力要素のうち、1 回目から 2 回目で最もスコアが上昇した要素を、高い順に 2 つ挙げてください。そして、スコアが上昇した理由を考えて、記入してください。」について

次の図 4 は、事前診断から事後診断でスコアが上昇した 1 位要素、2 位要素を集計したグラフである。最も多いのは「状況把握力」、2 番目に多いのは「働きかけ力」であった。

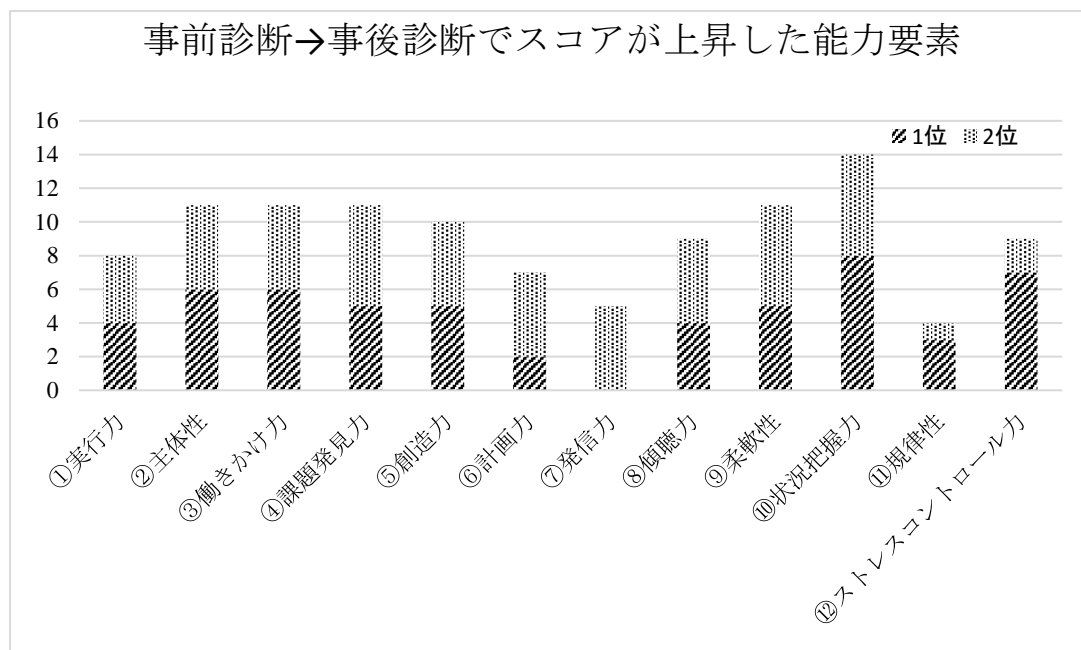


図 4 事前診断→事後診断でスコアが上昇した能力要素集計グラフ

スコアが上昇した能力の 1 位「状況把握力」2 位「働きかけ力」について、学生が自由記述した「上昇した理由」について、おもな記述を挙げる。

表 3 スコアが上昇した理由（自由記述）の抜粋

「状況把握力」が上昇した理由	「働きかけ力」が上昇した理由
<ul style="list-style-type: none"> ・販売(営業)をロールプレイングで体験させていただく中で、相手が求めていることや知りたいことを読み取る力がついたと思うから。 ・インターンシップ中に行ったグループワークによって、エブリイさんが出題した課題に対し、自分の意見を積極的に発言するだけでなく、周囲の人の意見を聞いて理解する力を身に付けることができたことでこの状況把握力のスコアが上昇したのではないかと感じました。 ・リーダーをやらせてもらったことから、いつも以上に周りを見え行動できるようになったため。 ・ほかの方の手伝いが必要かや仕事の進み具合などをよく見て、円滑に物事が進められるように働きかけれたため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで話し合うことが多くなかなかまとまりがつかない中で指摘するケースが多かったため上昇したと思う。 ・グループワークを通して他の人を巻き込むことができるようになったから ・インターンシップ期間では、お客様の口に入る商品を作る機会もあり、ミスが無いようにするために担当者の方や同じインターンシップ参加者の方に積極的にコミュニケーションを取りに行ったり、グループワークの際に成功させるためグループの人と積極的にコミュニケーションをたつたためだと考えられる。 ・リーダーをやらせてもらう中で、ほかの人に仕事を割り振ることや、すべて自分で行う必要がないことを学べた。 ・話し合いで意見が出なくなったとき、止まっ

	てしまったときに、自分から意見が出やすくなるよう、会話が続きやすくなるよう働きかけることができたのではないかと思うため。
--	--

自由記述のほとんどが、実習におけるどの体験がスコア上昇に導いたかを客観的に振り返る記述であった。このことにより、社会人基礎力診断とキャリア・カウンセリングは、学生にとって、実習体験の具体と能力要素との関連性を結びつける機能を果たしたと考えられる。

(2) 質問「これからの就職活動・職業生活に向けて、12の能力要素のうち、自分にはどの力が重要だと考えますか？（複数回答可 3つまで）そして今後、どのようにして、その力を伸ばしていくべきと考えますか？」について

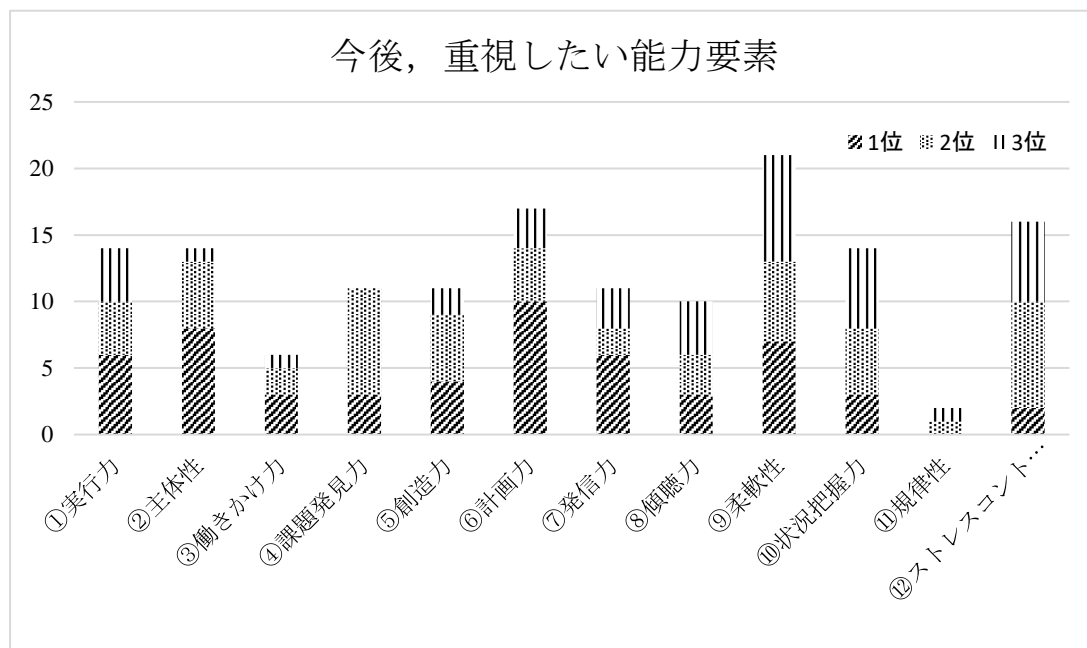


図5 「今後、重視したい能力要素」に関する集計グラフ

学生が、最も多く1位に上げたのは「計画力」、次に「主体性」だった。そして、1位・2位・3位の合計数で最も多くの学生が挙げたのは「柔軟性」、次に「計画力」だった。そこで、この3つの能力要素「計画力」「主体性」「柔軟性」について、「どのようにして、その力を伸ばしていくべきと考えるか」について、自由記述の主なものを見ていく。

表4 「どのようにして、その力を伸ばしていくべきと考えるか」自由記述整理表

「計画力」を伸ばすには	「主体性」を伸ばすには	「柔軟性」を伸ばすには
・まず近いこと、例えば翌日までに何が必要で何をすべきかを決めることはできる。しかし遠いこと、一年後などの先を見通し一つのことを終えるまでの計画を立てることができない。改善方法としては、先々のことを考えながら目標を立て計画をする。仮説設定力を身	・学生実験やグループワークなどで自分から行動やコミュニケーションを取って行くべきだと考える。 ・例えばプレゼンやグループワークなど、これからの学校生活で主体的に行動できるようにしたい。 ・今回のインターンシップ参	・世代の違う方や違う学部の人など、いろいろな人の話を聞く中でいろいろな考えに触れる。 ・自分の強みを伸ばしていく中で柔軟性も伸ばしていく。 ・言い方を変えることにより周りの人も意見が言いやすい、考えが言いやすい環境を作る。

<p>に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々、目標を掲げて生活をする。カレンダーやメモなどを付けて計画を立てて それに沿って生活や行動をするように心掛けて取り組む。 ・一つの長期的な計画を達成するのではなく、短期的な計画の達成を積み重ねることを大切にして計画力を伸ばしていきたい。 	<p>加により、主体性のスコアが1番上昇しました。学校では積極的に質問、アルバイトでは初めて学ぶ仕事を積極的に行う。失敗を恐れずに自分で行動していく力は今の自分の強みだと思うので、これからも伸ばしていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のインターンシップで1番スコアが高かった主体性を自分の長所として伸ばしていきたいです。普段の生活で、自分の判断に沿った行動を行って学生生活を送れば そのまま主体性が伸びると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主観だけにとらわれず、人の意見もたくさん取り入れ、交流する場を設けるようにする。 ・パン屋さんでアルバイトをしているので、お客様が求めていることを瞬時に判断する。例えば、お客様が探している商品がなかった場合には似たような商品をお勧めしたり、荷物が多のお客様の荷物を持ったり、小さいお子様には小さいお菓子を渡したりなど。 ・行動面・意識面それぞれにおいて、周りの意見を大切にしていこうと思います。自分の意見を貫き通すだけでなく、自分にはない意見を素直に受け入れ、みんなが良い状態で終われる行動をしていきたいと思ます。
---	---	--

この自由記述「今後の行動計画」について、自由記述を具体的に、すなわち場面と行動内容を書いているかどうか、記述内容を分析した。その結果が次の表である。

表5 「どのようにして、その力を伸ばしていくべきと考えるか」
自由記述内容レベル集計表

場面、行動	記述内容レベル	比率(%)	比率(%)
大学における学び、研究	具体的	20.4	57.1
サークル活動、アルバイト		5.4	
日々の生活全般		31.3	
大学における学び、研究	一般的 抽象的	6.1	37.4
サークル活動、アルバイト		2.7	
日々の生活全般		28.6	
その他の記述		5.4	5.4

場面については、「日々の生活全般」を挙げた記述が 59.9%と、「大学における学び、研究」を挙げた 26.5%の倍以上であった。そして、能力を伸ばす具体的方策を挙げるなど、行動内容を具体的に書いている比率は 57.1%であった。

また、キャリア・カウンセリングにおいては、スコアが弱い能力要素に注目するが多い。そこで、その傾向が強い学生に対して、「スコアが高い能力要素をさらに伸ばす視点もある」と助言したところ、最終的に「社会人基礎力アンケート」では、「スコアが高い要素をさらに伸ばす具体的方略」を挙げた学生も多く見られた。

社会人基礎力診断データをもとにキャリア・カウンセリングを実施することにより学生は、「診断結果をもとに、自らの資質・能力を向上する視点をもった」とともに「自らの資質・能力向上のための視点を広げた」と考えられる。

(3) 質問「社会人基礎力診断、キャリア・カウンセリングを受けて、気づいたこと・感想等、自由に記述してください。」について

この質問において、「社会人基礎力向上に向けたより良い学生生活のデザイン」に向け、キャリア・カウンセリングが有効であったか、学生の自由な記述内容によって検証しようとした。

キャリア・カウンセリングを受けた学生数 61、その後「社会人基礎力アンケート」に入力した学生数 55、さらにこの自由記述内に「キャリア・カウンセリングが有効だった」という記述を入力した学生数 26 だった。

まず、この 26 名が、前項質問 (3) の「そして、今後、どのようにして、その力を伸ばしていくべきと考えていますか?」において、具体的行動を書いていたか、について調べた。その集計が次の表 6 である。

表 6 表 5 集計について、キャリア・カウンセリングの効果を記述した 26 名の学生を抽出集計した結果表

場面、行動	記述内容レベル	比率(%)
大学における学び、研究	具体的	64.0
サークル活動、アルバイト		
日々の生活全般		
大学における学び、研究	一般的 抽象的	25.3
サークル活動、アルバイト		
日々の生活全般		
その他の記述		10.7

行動を具体的に記述した件数は、全体 57.1% から、キャリア・カウンセリング効果を記述した学生 64.0% と、6.9% 上昇した。キャリア・カウンセリングを肯定的に捉えている学生は、具体的な行動計画を立てる比率が一定程度高まる、と考えられる。

次に、26 名の記述を内容別に集計したグラフが、図 6 である。

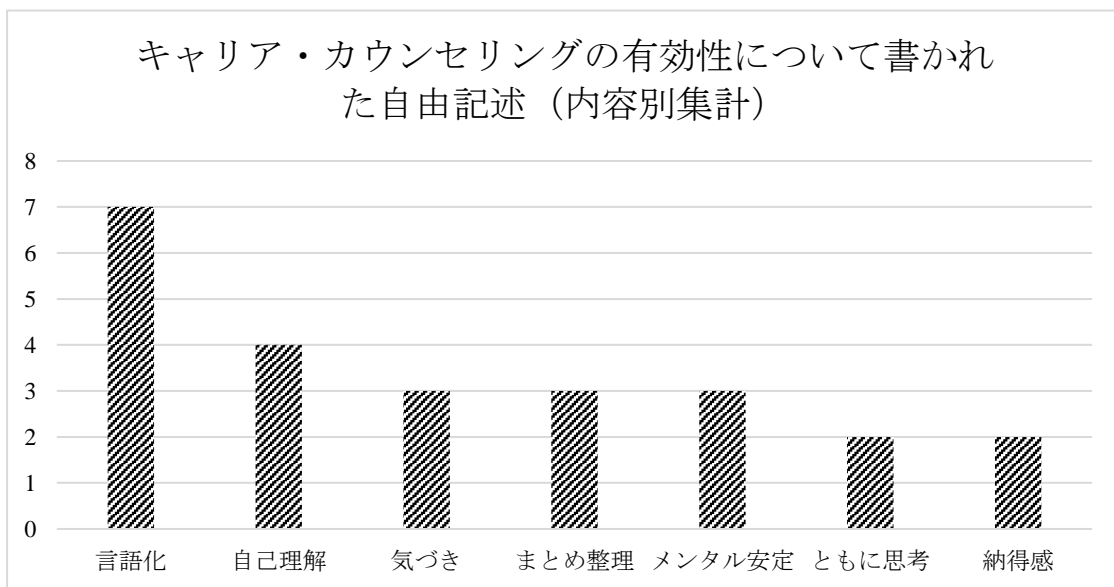


図 6 キャリア・カウンセリング有効性を書いた自由記述の内容別集計グラフ

「言語化」を挙げた記述が1位で7件、「自己理解」を挙げた記述が2位で4件だった。続いて、「言語化」「自己理解」に関する自由記述内容を挙げる。

表7 「言語化」「自己理解」について書かれた自由記述整理表

「言語化」有効記述	「自己理解」有効記述
<ul style="list-style-type: none"> ・自分で思っていたことを言葉で思い出させていただきました。 ・カウンセリングを受ける前は自身の考えがまとまらず不安でしたが、実際に言葉にすることで物事を整理することができ安心しました。 ・頭の中で考えるよりも、言葉にして相手に聞いてもらうことにより、今後の自分の課題を俯瞰することが出来ました。 ・伝えるために言葉にしたことで自分の考えを書き出すことができた。誰かに話すことで体験したことを理解、確認でき、今後どうしていくのかを考えることができた。 ・インターンシップの時に身につけた力について、改めて言葉にすることでレポートの大筋を決めることができた。また、問いに対して答えていく方法だったため話しやすく、自身で気付けなかったポイントや就職活動・入社後に大切なポイントについて知ることができた。 ・自分の中でまとまっていなかった内容が言葉にすることで簡単に具体的にまとまることを再確認しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力診断やキャリアカウンセリングを通して、自分の内面性を今まで以上に理解することができたので、これからどういう力を活かしていきたいのか改めて考え、将来に役立てていきたいと思います。 ・社会人基礎力診断、キャリア・カウンセリングをして改めて自分の成長した部分がよくわかりました。また、これからの課題や取り組んで行く目標を知ることが出来たので良かったと思います。 ・今回のキャリア・カウンセリングで自分の成長したところを再確認でき、アドバイスも頂けて就活に対しての意欲がとても向上しました。今自分がやるべきことが明確になってとても有意義な時間でした。 ・社会人基礎力診断で伸びたところ、伸びなかったところがはっきりわかり、キャリア・カウンセリングを受けさせてもらったことで、どうしてそれが伸びたのか伸びなかったのか話し合う中で見つけられ、今後意識することが具体的になりました。自分の中だけではここまで明確に次やるべきことがわからなかったと思うので受けられてよかったです。

自由記述内容の集計・整理から、社会人基礎力診断（事前・事後診断）の結果についてキャリア・カウンセリングを行うことの有効性は、「自己理解」の向上、「言語化により自身の振り返り、今後の展開の明確化」に現れると考えられる。

7. インターンシップ後の学生について事例と考察

【事例1】Aさん。インターンシップ中の実習業務において専門技術知識を反映して作業する場面があった。その際、事業所担当者が説明する専門用語が分からない、指示どおりに作業できないことが続いた。本学専門教育で及第点以上の知識・技術を得ていると思っていたAは、自信を失った。しかし、インターンシップ終了後、Aは、自分の学びの不足と捉え、本学専門教育での学びにこれまで以上に意欲を持って取り組み始めた。また、実験・実習を進めるための本当に必要な専門知識は何かを常に考えて学ぶようになった。

【事例2】Bさん。インターンシップ中のグループワーク、事業所担当者から得る知識・経験談等により、実践的学びに関する関心が高まった。実習終了後、事業所担当者から各種地域行事の紹介を受け、それに参加するようになった。それらの活動により、職業観が広がるとともに、自分が本当に学びたい分野・本当にやりたい仕事は何かを考え、積極的に学内・学外の活動に取り組んだ。本学における所属研究室選びについても、明確な展望を持って決定することができた。

この2つの事例は、インターンシップが学生にとって、興味が喚起され、次なる学びの方向性を示す機会となり、キャリア形成を図るアクションに繋がる経験となったと考えられる。2つの事例とも、キャリア・カウンセリングの場面において、カウンセラーが学生の思いを強化・促進している。この事例は、インターンシップは克蘭ボルツ (Krumboltz, J.D) が提唱した「計画された偶発性理論 (planned happenstance theory)」の場の一つとなり得る、そしてその際のキャリア・カウンセリングは、克蘭ボルツが提唱した学習理論に基づき、クライアントの「新しい学習」を促す役割を担うと考える。

ここで、克蘭ボルツが提唱した学習理論と「計画された偶発性理論 (planned happenstance theory)」について、渡辺(2018)⁴は次のように述べている。

【学習理論】

克蘭ボルツはキャリア・カウンセリングにおける学習理論を提唱した。学習理論は、キャリア・カウンセラーがどのようにクライアントを援助するかについての理論である。

キャリア・カウンセリングの目標を「変化し続ける仕事環境において満足のいく人生をクライアントが作り出していけるようにスキル・興味・信念・価値・職業習慣、個人特性に関する学習を促進させること。」と述べている。そこで、キャリア・カウンセラーは、クライアントの「新しい学習」を促す役割を担うのである。

その際に用いる介入方法には、①発達の・予防的介入と②治療的介入の2つがある。この①発達の・予防的介入に、キャリア教育、インターンシップ制度、ジョブ・クラブ・プログラムなどが挙げられる。

【計画された偶発性理論 (planned happenstance theory)】

克蘭ボルツは、1999年に「計画された偶発性理論 (planned happenstance theory)」を提唱した。人のキャリアは偶然の出来事によって左右される。当人も予想しなかったことによって興味が喚起され、学ぶ機会が得られ、成長する。したがって、偶然に出会う機会を増やし、それを自分のキャリア形成に取り込み、その準備をすることがキャリア支援であるとしている。

そして、克蘭ボルツは、計画された偶発性理論の立場からキャリア支援の具体をアドバイスとして挙げており、その中に次のアドバイスがある。

- ・新しい活動を試みたり、新しい興味を開発したり、古い信念に疑問を呈したり、生涯にわたる学習を続けるための機会として、想定外の出来事を利用する方法をクライアントに教えなさい。
- ・将来、有益な想定外の出来事が起こりやすくなるよう行動をはじめるときをクライアントに教えなさい。
- ・クライアントがキャリアを通して学習できるよう継続的な支援をしっかりと提供しなさい。

事例1、事例2では、キャリア・カウンセリングの後の学生の動きを追跡したため、インターンシップ後の行動・学びを捉えることができた。この事例は、インターンシップが「計画的な偶発性理論」に基づく出来事となり、そしてキャリア・カウンセラーが学習理論に基づく支援をすることにより、学生に「新しい学習」「新しい行動」を促すことに繋がった、と考える。インターンシップとキャリア・カウンセリングは上記の2つの理論に則った展開に結び付く可能性を把握した。その際は、追跡的なキャリア・カウンセリングが重要になると考える。

8. 成果と課題

(1) 成果

2020年度に導入した「社会人基礎力診断 (事前・事後)」について、2020年度は希望学生についてのみ実施した。2021年度については、インターン実施学生全員に「社会人基礎力診断 (事前・事後)」を受けることを指示した。そして、インターン実施後の「社会人基礎力診断 (事後診断)」後に、キャ

リア・カウンセリングを計画、70%の学生がキャリア・カウンセリングを実施した。

学生へのアンケートの自由記述を見ると、「社会人基礎力診断（事前・事後）」と「キャリア・カウンセリング」は、学生の社会人基礎力向上及びそれに向けた意欲・態度の向上のための両輪と考える。

「社会人基礎力診断（事前・事後）」のみでは、学生はデータを聞き流し今後の学生生活向上のための意欲・態度に結びつかないと考える。また、「キャリア・カウンセリング」のみの場合、学生と話す内容について焦点化が困難と考える。学生の「社会人基礎力」向上、それに向けた意欲・態度の向上のためには、検査とキャリア・カウンセリングを有機的に関連させて実施することが重要と考える。

また、前章7で述べたとおり、インターンシップは学生にとって **planned happenstance** となり、学習理論に基づいたキャリア・カウンセリングによって、キャリア形成に繋がるさらなる学習を促進させる機会となると考える。

(2) 課題

キャリア・カウンセリングは今年度初めて実施し、その有効性を一定程度確認した。次年度以降実施に当たっては、学生に事前周知し、受ける学生の比率を高めることが重要である。また、実施に当たっては、次の4点が課題と考える。

- 1) 複数人が担当する場合、実施内容と方法の統一化
- 2) キャリア・カウンセリング技術の向上
- 3) インターンシップが学生にとって **planned happenstance** となり、キャリア形成に繋がるさらなる学習・行動を促進させるためには、追跡的なキャリア・カウンセリングが必要
- 4) 今回の実践と考察について、統計理論に基づいて分析（事前・事後の変化に関する検定、検証群・比較群のデータに関する検定）が必要

最後に、今回、学生が入力した自由記述を挙げ、今後、継続的なキャリア・カウンセリング研究を推進したいと考える。

キャリア・カウンセリングは初めてだったのですが、自分の意見が出るまで急かさず笑顔で聴いてくださったのでとても話しやすかったですし、いつもならできない質問もすることができ、次にしようと思っていたことやこれからはないといけなかったことに対する意識がより高くなりました。本当に受けられる機会を与えてもらえて良かったです。ありがとうございました。

【注】

(1) 社会人基礎力： 経済産業省が2006年に「職場や地域社会で多くの人々と接触しながら仕事をしていくために必要な能力」を「社会人基礎力」と名付けた。「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されている。

経済産業省「社会人基礎力に関する研究会 - 「中間取りまとめ」 - 平成18年1月20日」より

(2) 日本キャリア教育学会「日本キャリア教育学会認定キャリア・カウンセラー制度規則」

(3) 全米キャリア開発協会：NCDANational Development Association) 1951

(4) 国家資格キャリアコンサルタント：

キャリア形成や職業能力開発などに関する相談・助言（キャリアコンサルティング）を行う専門家として、平成28年4月より、職業能力開発促進法に規定された国家資格

（厚生労働省リーフレット「国家資格キャリアコンサルタント」になって会社を元気にしてみませんか？」より）

【参考文献】

- 1 木村周 『日本労働研究雑誌 No.657/April2015』 p42-43
- 2 宮城まり子「キャリア教育の意味とキャリアカウンセリングの役割」 p24-25. 『立正大学心理学研究所紀要第4号(2006) 立正大学心理学部』 より。
- 3 木村周著『キャリアコンサルティング理論と実践』 2010, p225-232
- 4 渡辺三枝子編著『キャリアの心理学』 ナカニシヤ出版、p129-148